

令和7年第3回 北海道議会定例会〔一般質問〕開催状況

開催年月日 令和7年9月24日(水)

質問者 日本共産党 丸山 はるみ 議員

答弁者 知事 鈴木 直道

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 戦後80年と平和の取組等について (一) 平和施策の必要性と取組について 本年は、太平洋戦争終戦から80年の節目の年です。 知事は毎年の北海道戦没者追悼式の式辞で「戦争の惨禍を二度と繰り返さない」「記憶を風化させることなく、次の世代に伝えていくことは、私たちの使命です」と述べていますが、その言葉を具現化する取組の必要性を知事はどう認識し、取り組んできたのでしょうか。</p> <p>再一 (一) 平和施策の必要性と取組について 時事通信が行った「戦争に関する若者100人アンケート」によると、広島・長崎への原爆投下日を知らないとの回答が半数近くに上っています。 戦争や平和への関心が薄れている傾向が明らかとなりました。 知事及び教育長は、戦争に関する風化が進んでいる現状に対する危機感をどのように感じているのか、伺います。</p> <p>(二) 戦争の悲惨と歴史の継承に向けた取組について 戦争の記憶を次世代に伝えていく上で大切なことの一つに、アイヌ民族と戦争の被害の歴史があります。 同化政策の下、日本兵と同様に徴兵されたアイヌ民族は、アイヌであるが故に軍隊の中でも様々な差別を受け、アイヌであるが故に和人が行かない危険な最前線に送り込まれたと遺族らが証言をしています。こうした事実は、公式に記録として取りまとめられておらず、歴史的事実の風化が懸念されますが、知事は、この歴史的事実をどのように認識しているのでしょうか。 道としてアイヌ民族への差別・戦争被害に関する資料をまとめ、歴史の事実を次世代に繋げていく取り組みを、知事の政治姿勢として明確に打ち出すべきではないでしょうか。併せて知事の見解を伺います。 また、戦争体験者が極めて少なくなる中、戦争の悲惨さの記憶を次世代に引き継ぐことは、今を生きる私たちの責務であり、これまで以上に取り組みを強める必要があります。どう取り組むのか、知事及び教育長に伺います。</p>	<p>【知事】 戦争の記憶の継承についてであります。戦争の悲惨さと平和の尊さを心に刻み、次の世代に引き継いでいく努力を続けていくことは、今を生きる私たちの使命であります。 このため、道では、戦争で亡くなられた方々に敬意と感謝の念を捧げ、平和への誓いを新たにすため、毎年「北海道戦没者追悼式」を開催しております。 また、本年は、戦後80年を迎える節目の年であることに鑑み、戦争体験の語り部による講話や戦災被害地の写真展示などを行う「平和祈念企画展」をあわせて開催をしたほか、赤れんが庁舎においては、権太関係資料室での特別展示や「戦後80年『ヒロシマ・ナガサキの証言』展」を開催するなど、多くの道民の皆様にとって、平和について考える機会となるよう取り組んでいるところでございます。</p> <p>【知事】 戦争の記憶に係る認識についてであります。私としては、未だ争いが絶えない世界にあって、戦争の記憶を風化させることなく、次の世代にしっかりと伝えていくことが私たちの使命であると考えております。</p> <p>【知事】 歴史認識などについてであります。戦時下において弱い立場にある方々が、厳しい環境におかれた中、アイヌの方々も戦禍に巻き込まれたことについて、様々な証言等が報道されたことは承知をしておりますが、いかなる状況下であっても、アイヌであることを理由とした差別は、許されないものと認識しています。 このため、道では、アイヌの方々の歴史や文化に係る冊子の配布や人権フォーラムの開催など、教育普及活動を行うことにより、正しい理解の促進に努めているところでございます。 現在、世界では、争いが絶えない憂慮すべき状況が続き、私としては、戦争の惨禍を決して繰り返してはならないとの認識のもと今後、戦争を知らない世代がますます多くなっていく状況も踏まえ、アイヌの方々に限らず、風化する戦争の記憶を、記録として残すことは重要と考えており、悲惨な戦争の記憶や平和の尊さを若い世代の方々に引き継いでいけるよう取組を進めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>再一（二）戦争の悲惨さと歴史の継承に向けた取組について</p> <p>戦争の記憶の風化が進む中、アイヌ民族の戦争被害や、戦争と差別の実態については記録もなく先ほど答弁のあった冊子にも記載はありません。</p> <p>戦争の被害や差別の歴史は、掘り起こさなければ埋もれたままになります。</p> <p>戦争の惨禍に対する反省とともに、次世代に継承することが大切で必要です。</p> <p>知事は「記憶を風化させることなく、次世代に伝えていく」と毎年、戦没者追悼式で述べてきましたが、知事の言葉とは裏腹に具体的な取り組みがこれまで追悼式以外なかったことを重く受け止めるべきです。</p> <p>アイヌに限らず戦争の記憶を残すことは重要との答弁がありました。</p> <p>とりわけ若い世代は、戦争の悲惨さや体験に触れる機会が少ないです。</p> <p>ここに思い切って取り組まない限り、戦争の記憶の風化はさらに加速します。</p> <p>これまでほとんど取り組まれてこなかったことを鑑み、戦争の記憶や平和の尊さを若い世代に引き継ぐために抜本的に取り組みを強化するべきです。</p> <p>知事及び教育長の見解を伺います。</p>	<p>【知事】</p> <p>記憶の継承に関する取組についてであります。私としては、戦争の惨禍を決して繰り返してはならないとの認識のもと、今後、戦争を知らない世代がますます多くなっていく状況も踏まえ、悲惨な戦争の記憶や平和の尊さを若い世代に引き継いでいけるよう今後とも取り組んでまいります。</p>